

IIxil ジャンボスライドN-AL型 電動柱 取付説明書

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味


警告

- 取扱いを誤った場合に使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示します。


注意

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示します。

一般情報に関する記号

お願い

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体（個々の説明枠）にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。


補足

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>


警告

- 門扉は人や車が入り出すためのものです。使用用途、目的を踏まえた上で必ず安全な場所に設置してください。特に開閉時、扉が公道（道路面）に飛び出さないようにしてください。重大な事故につながるおそれがあります。


注意

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。

お願い

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。

<施工上のご注意>

⚠ 注意

- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- アルミ製品が亜鉛、ステンレス以外の金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。
- 腐食のおそれのある接着剤や化学製品を使用する場合は、製品と接触しないようにするか、接触する部分を完全に養生してください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 扉走行床面は水平に仕上げてください。
- 基礎部の埋込み深さは製品ごとに決めています。現場によって（堅牢な地盤、軟弱な地盤など）基礎部のコンクリートの量（体積）を十分配慮してください。
- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 製品破損による人への被害、物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。
 - ・ボルト・ネジは弊社純正品の規定本数を使い、下記締付けトルクで固定した後に、緩みがない事を確認してください。
 - ・ボルト・ネジは締付けすぎない（被結合部材の破損、ねじが塑性伸びを起こさない状態）ようにしてください。

ネジ種類	タップ側材質	
	鋼材	アルミ
φ4ネジ	1.5 N・m	1 N・m
M4ネジ		
M6ボルト	5 N・m	2.5 N・m
M8ボルト	25 N・m	12.5 N・m
M12ナット	42.5 N・m	—

お願い

- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、工事中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。

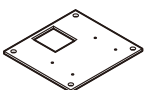
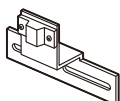
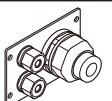
<電気配線工事について>

⚠ 注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。
- 電動柱は、D種（第3種）接地工事を行なってください。

■梱包明細表

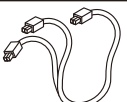
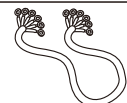
【1】電動柱セット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
電動柱セット		1	2
ベースプレート		1	2
電動柱固定アングル		1	2
電動柱固定アングル (スイッチカバー、六角棒レンチ付)		1	2
埋設ケーブルカバー		1	2
マグネットスイッチ		2	4
押えローラーセット		1	2
配線取入口カバー		1	2
リモコン送信器		1	2
【1-1】 M8×20座金組込 六角ボルト (PW+SW)		8	16
【1-2】 M8×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		4	8
【1-3】 φ4×12 トラスタッピンネジ		8	16
【1-4】 M4×8座金組込 ナベネジ (PW+SW)		4	8
【1-5】 M6×15座金組込 六角ボルト (PW+SW)		4	8

【2】センサー柱セット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
センサー柱 (投光側)		2	2
センサー柱 (受光側)		2	2
柱キャップ		4	4
センサーフード		4	4
【2-1】 φ4×10トラスタッピンネジ		24	24

【3】センサーケーブルセット

名 称	略 図	員 数	
		片引き	両引き
センサーケーブル		2	2
連結ケーブル		—	1

【4】リモコン送信器セット

オプション

名 称	略 図	員数
リモコン送信器		1
取扱説明書	—	1
保証書	—	1

1. 基本納まり寸法

1-1 片開き ※ () 内寸法はレール外寸650mmを示します。

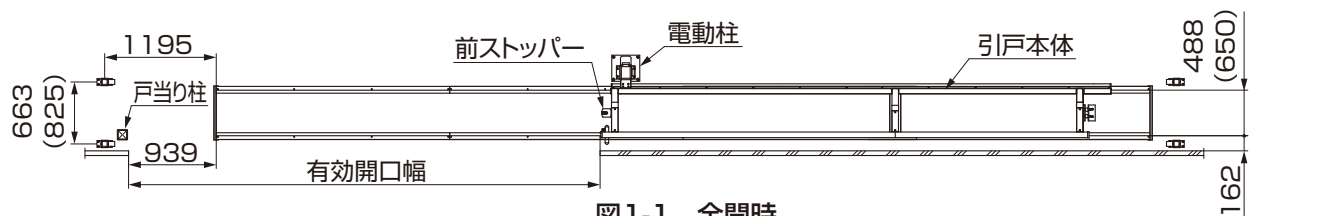


図1-1 全開時

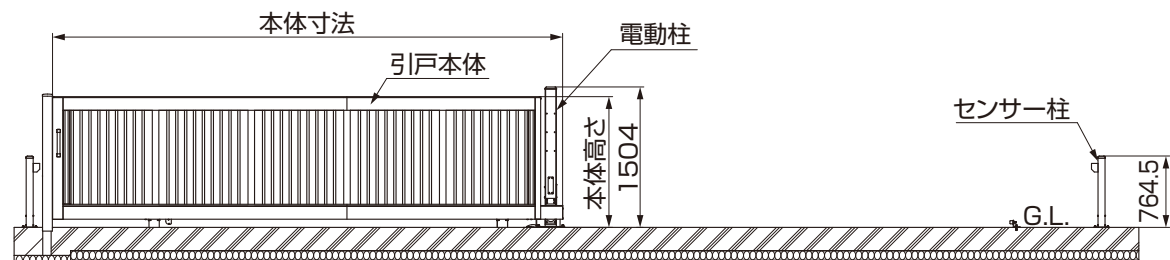
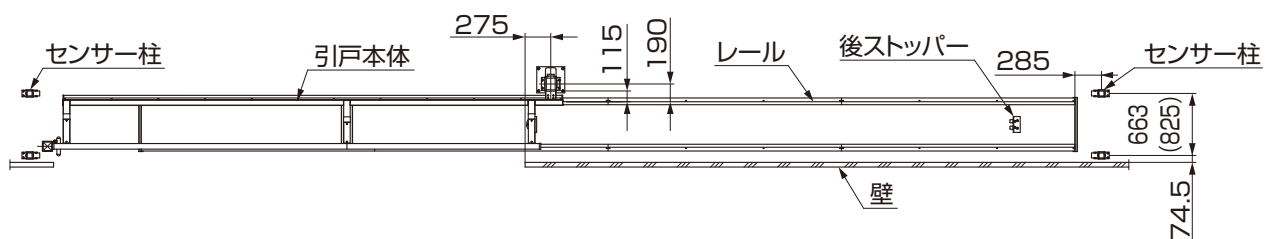


図1-2 全閉時

表1-1

呼称	有効開口幅			本体寸法		
	Dタイプ	Eタイプ	Fタイプ	Dタイプ	Eタイプ	Fタイプ
W30	3000	3000	3000	3413	3408	3408
W40	4025	4000	4000	4438	4408	4408
W50	5050	5000	5000	5463	5408	5408
W60	6075	6000	6000	6488	6408	6408
W70	7100	7000	—	7513	7408	—
W80	8125	8000	—	8538	8408	—
W90	9150	9000	—	9563	9408	—
W100	10175	10000	—	10588	10408	—

表1-2

呼称	本体高さ	レール幅
H12	1200	488
H14	1400	488
H15	1500	650
H16	1600	650
H18	1800	650
H20	2000	650

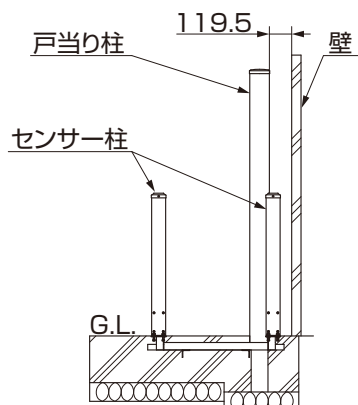


図1-3

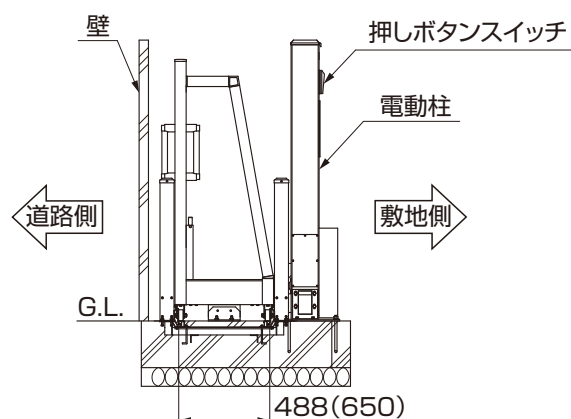


図1-4

1-2 両開き ※()内寸法はレール外寸650mmを示します。

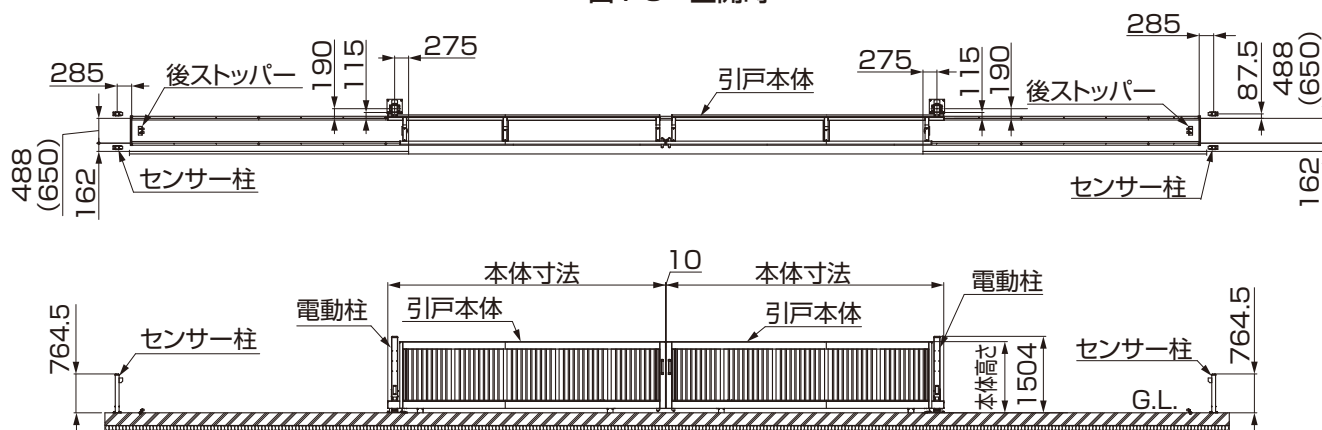
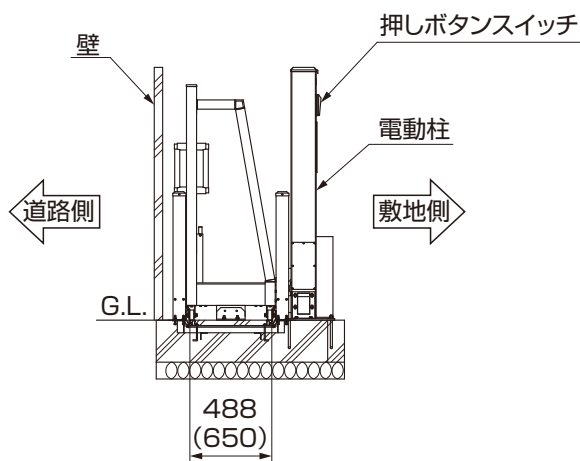


表1-3

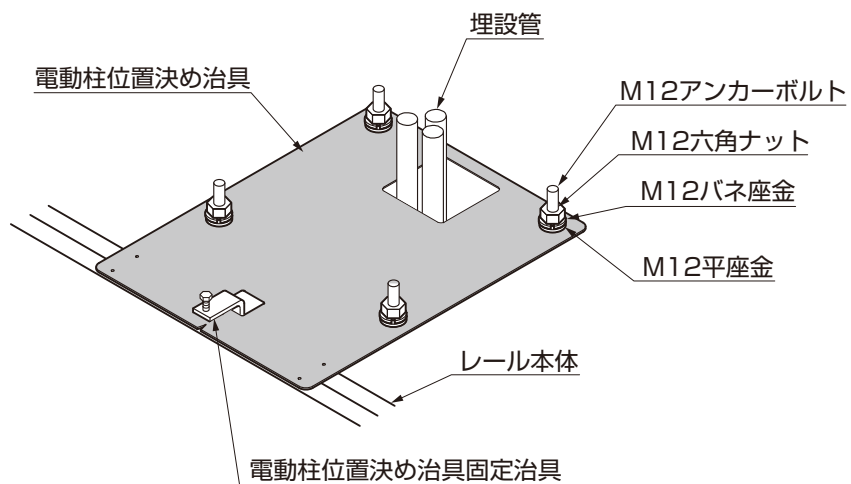
呼称	有効開口幅		本体寸法	
	Dタイプ	Eタイプ	Dタイプ	Eタイプ
W30-W30	6018	6018	3413	3408
W40-W40	8068	8018	4438	4408
W50-W50	10118	10018	5463	5408
W60-W60	12168	12018	6488	6408
W70-W70	14218	14018	7513	7408
W80-W80	16268	16018	8538	8408
W90-W90	18318	18018	9563	9408
W100-W100	20368	20018	10588	10408

表1-4

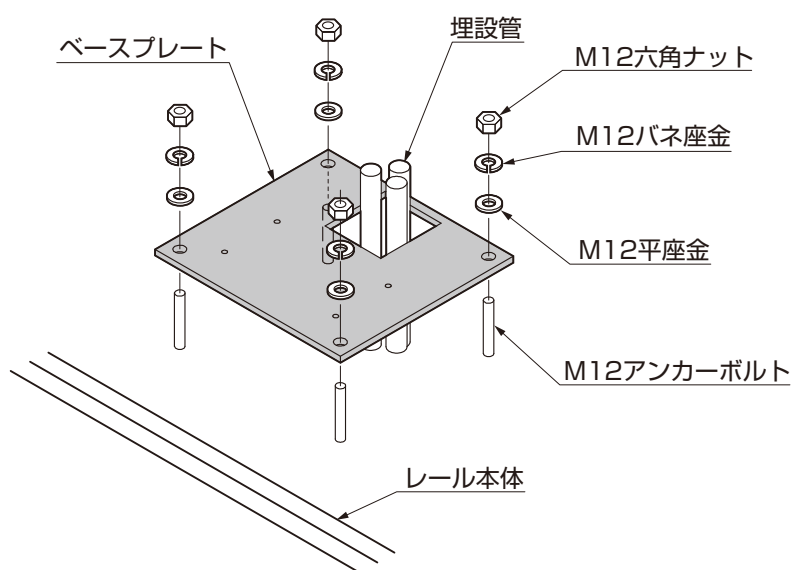
呼称	本体高さ	レール幅
H12	1200	488
H14	1400	488
H15	1500	650
H16	1600	650
H18	1800	650
H20	2000	650



2. ベースプレートの取付け



①あらかじめ取付いているM12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金をはずして、電動柱位置決め治具、電動柱位置決め治具固定治具を取り外してください。



②取付いていたM12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金でベースプレートを取付けてください。

補足

●M12六角ナット、M12バネ座金、M12平座金は電動柱位置決め治具に取付いているものを使用してください。

3. 電動柱の取付け

3-1 電動柱固定アングルの取付け

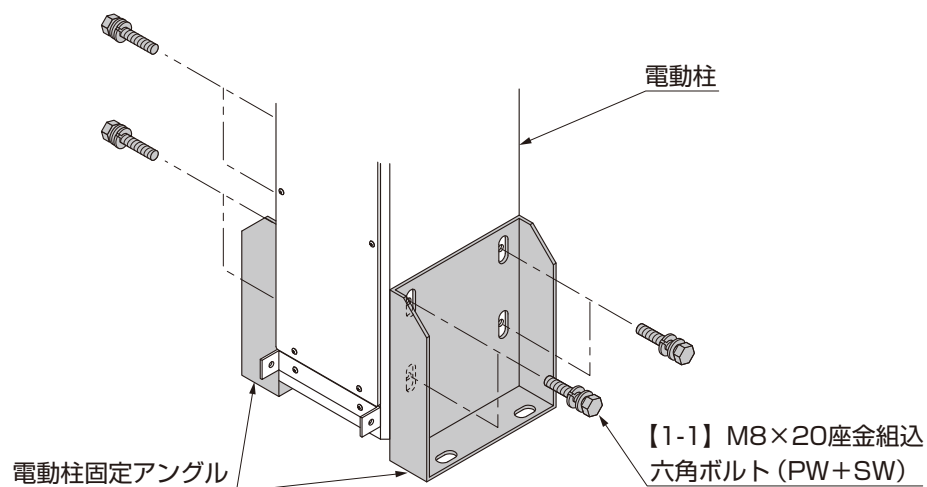


図3-1

- ①電動柱に電動柱固定アングルを【1-1】で仮止めしてください。

お願い

- 電動柱固定アングルはベースプレートに取付けるまでの間は、仮止め状態にしてください。

3-2 電動柱の取付け

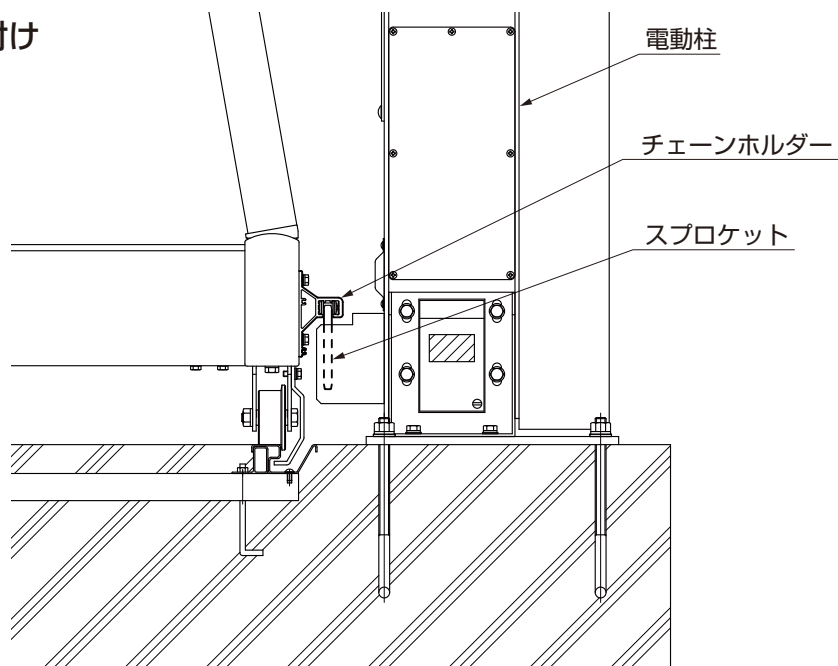


図3-2

- ①電動柱のスプロケットがチェーンホルダーにぶつからないようにチェーンホルダーの下側からスプロケットをチェーンホルダーに挿入してください。

お願い

- スプロケットをチェーンホルダーにぶつけると、スプロケットが破損するおそれがあります。スプロケットが破損すると引戸の開閉ができなくなります。

3. (つづき)

3-3 電動柱の固定

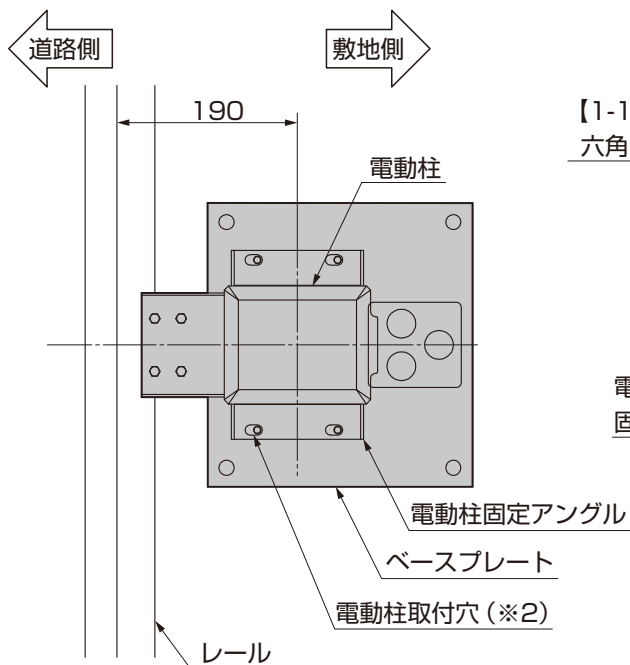


図3-3

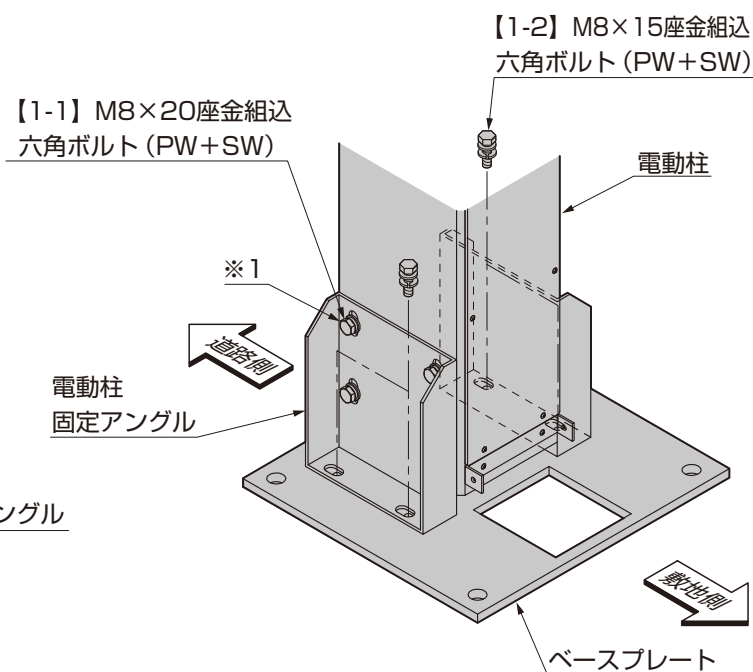


図3-4

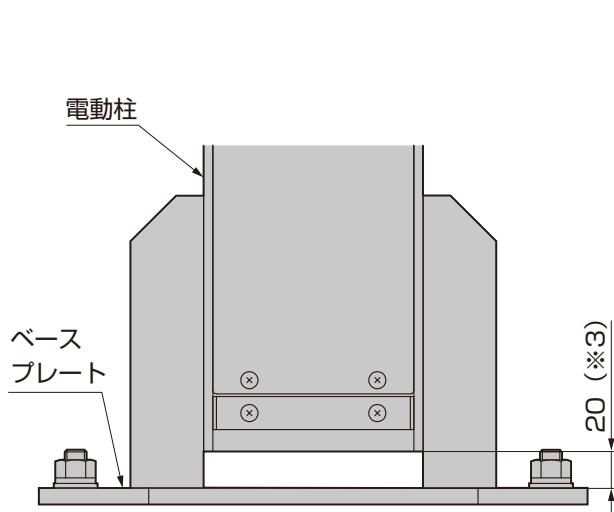


図3-5

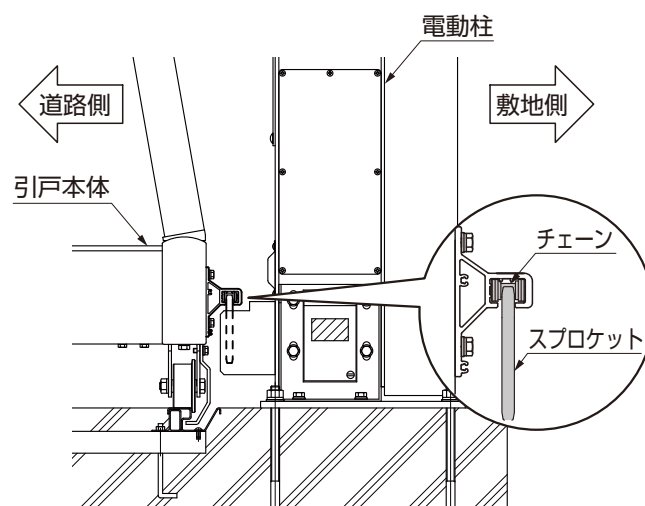


図3-6

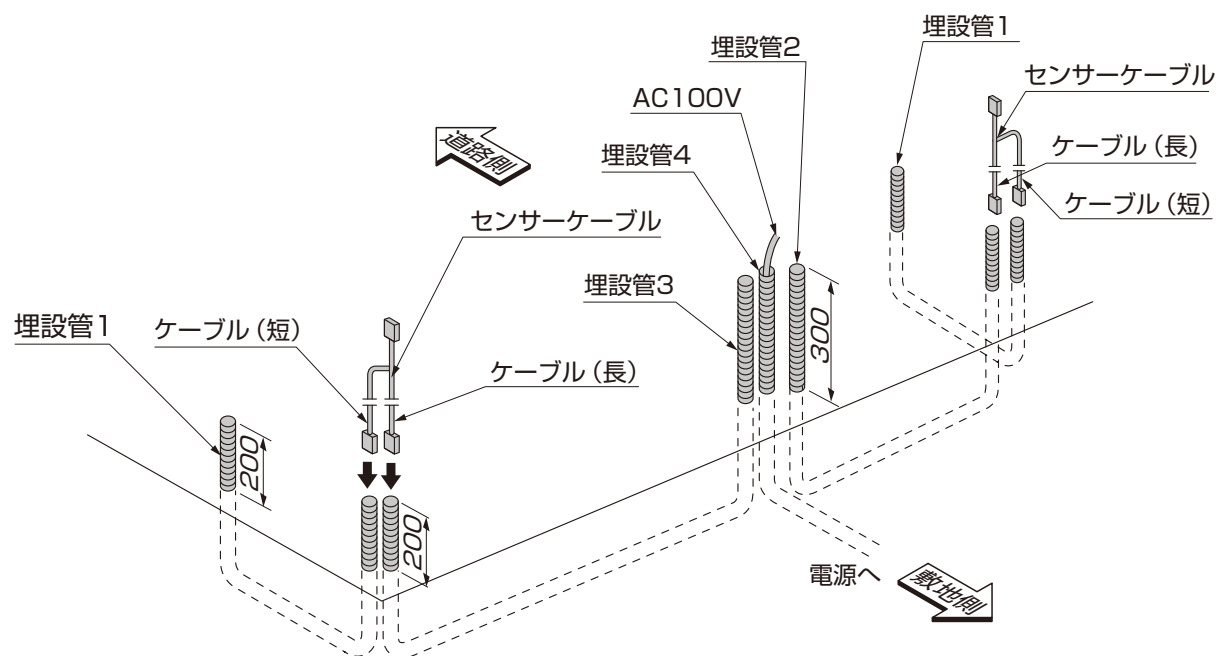
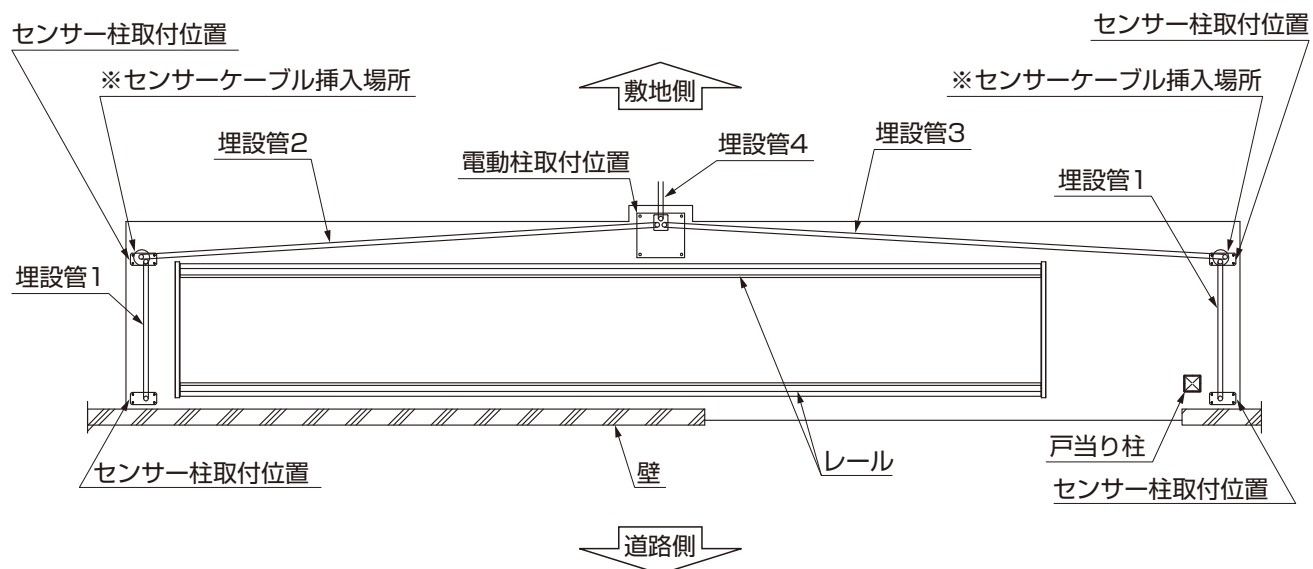
- ①電動柱をベースプレートに【1-2】で固定してください。
- ②電動柱を垂直にしてから、仮止めしてある【1-1】を固定してください。その際、スプロケットとチェーンが確実に噛みあっているか、確認してください。

補足

- 電動柱固定アングル取付穴は長穴になっていますが、標準位置は長穴の中心(※1)になります。
- ベースプレートと電動柱のすき間は20mmになります。(※3)
- 電動柱取付穴(※2)は長穴になっていますが、長穴右側が標準取付位置になります。(図3-3参照)

4. ケーブルの配線方法

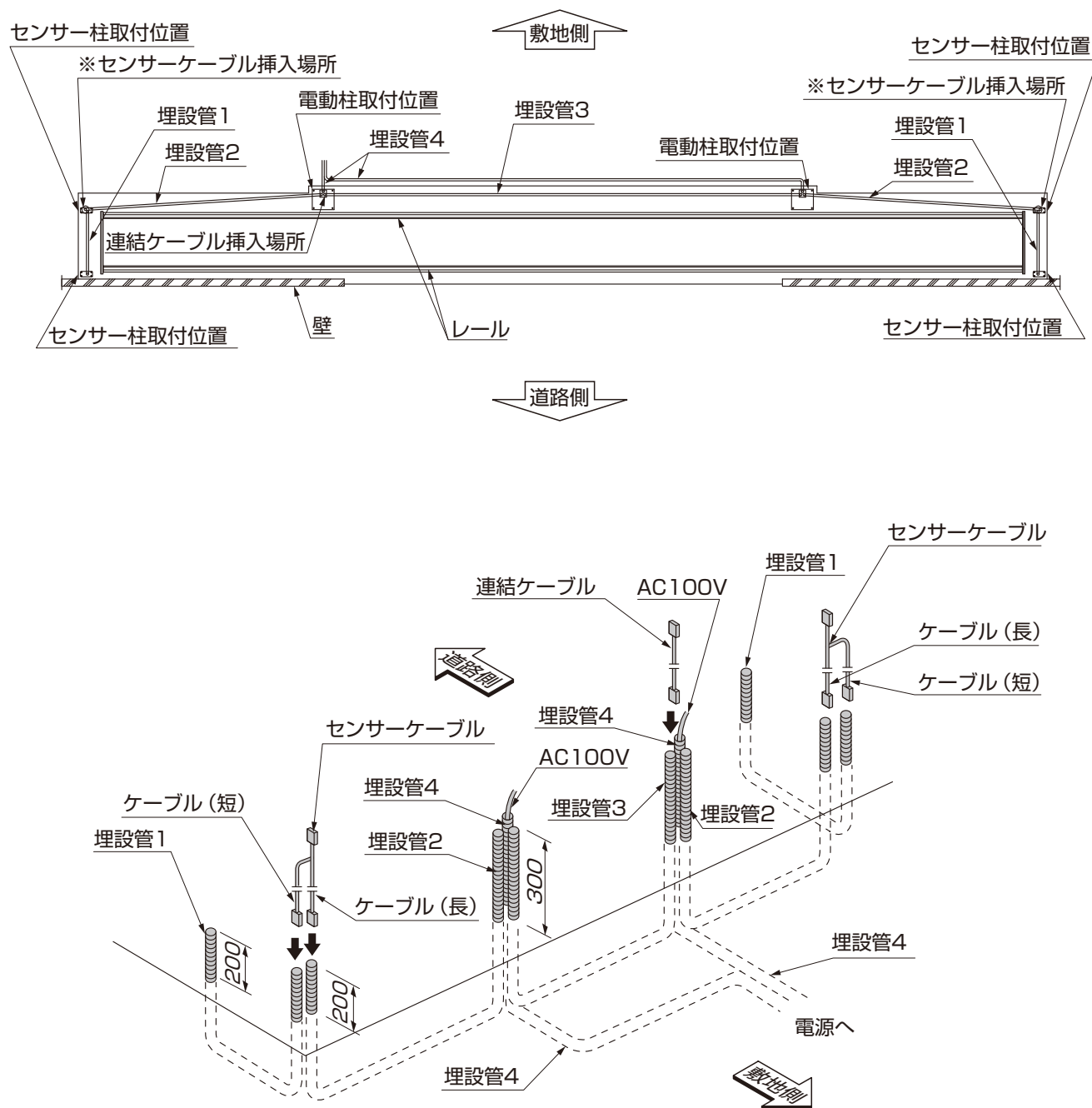
4-1 片開き



- ①センサーケーブル挿入場所から、センサーケーブルを埋設管に通してください。その際、短い方のケーブルを埋設管1に、長い方のケーブルを埋設管2、3に通してください。

4. (つづき)

4-2 両開き



- ① センサーケーブル挿入場所から、センサーケーブル、連結ケーブル挿入場所から連結ケーブルを埋設管に通してください。センサーケーブルは、短い方のケーブルを埋設管1に、長い方のケーブルを埋設管2に通してください。

5. センサー柱の取付け

5-1 センサー柱の取付け ※ () 内寸法はレール外寸650mmを示します。

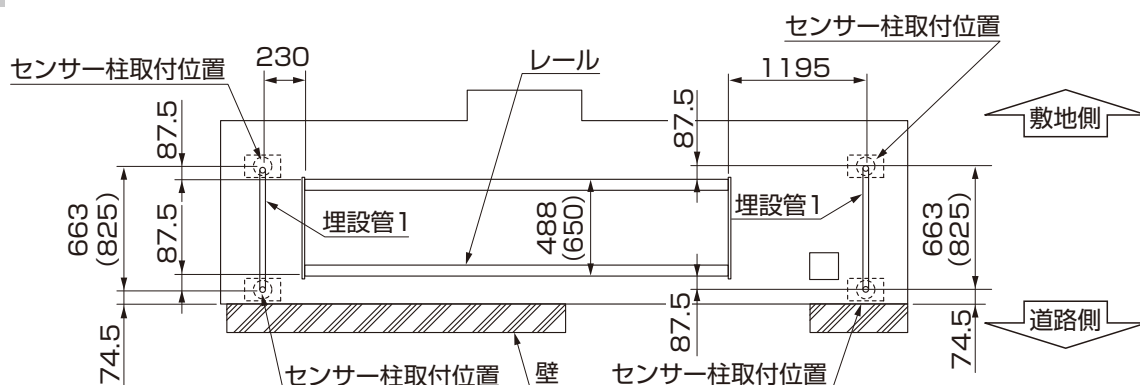


図5-1 片開き

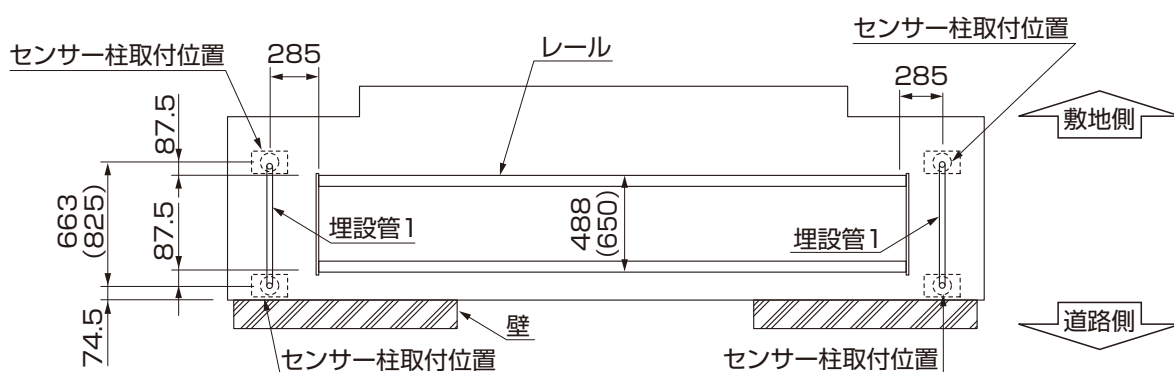


図5-2 両開き

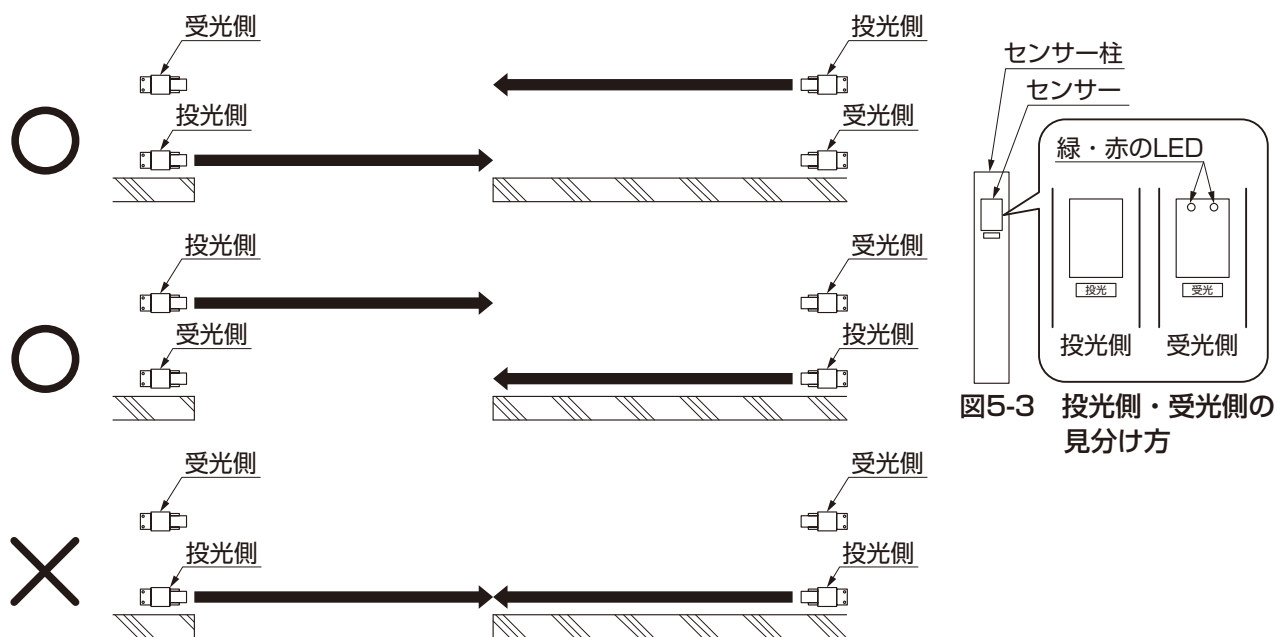


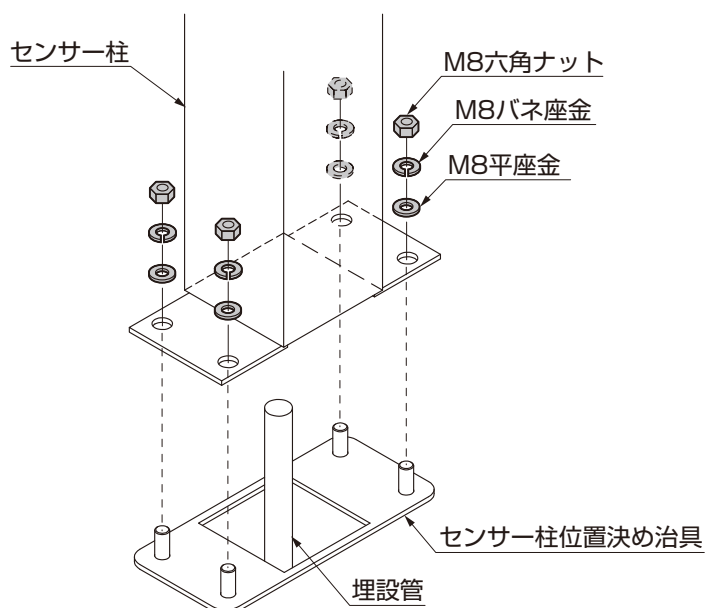
図5-3 投光側・受光側の見分け方

①センサー柱の投光側と受光側が、交互になるように取付けてください。

補足

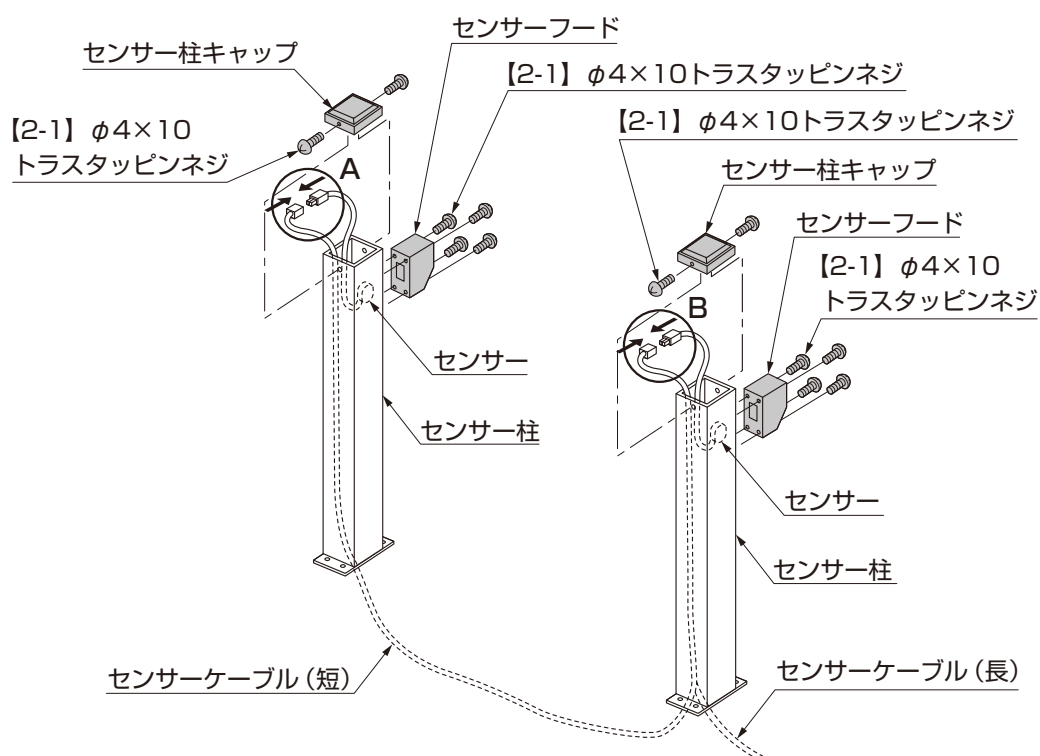
●センサー柱の投光側と受光側の見分け方は図8-3を参照してください。

5. (つづき)



- ①あらかじめ、センサー柱位置決め治具に取付いている、M8六角ナット、M8バネ座金、M8平座金でセンサー柱を固定してください。

5-2 配線および部品の取付け

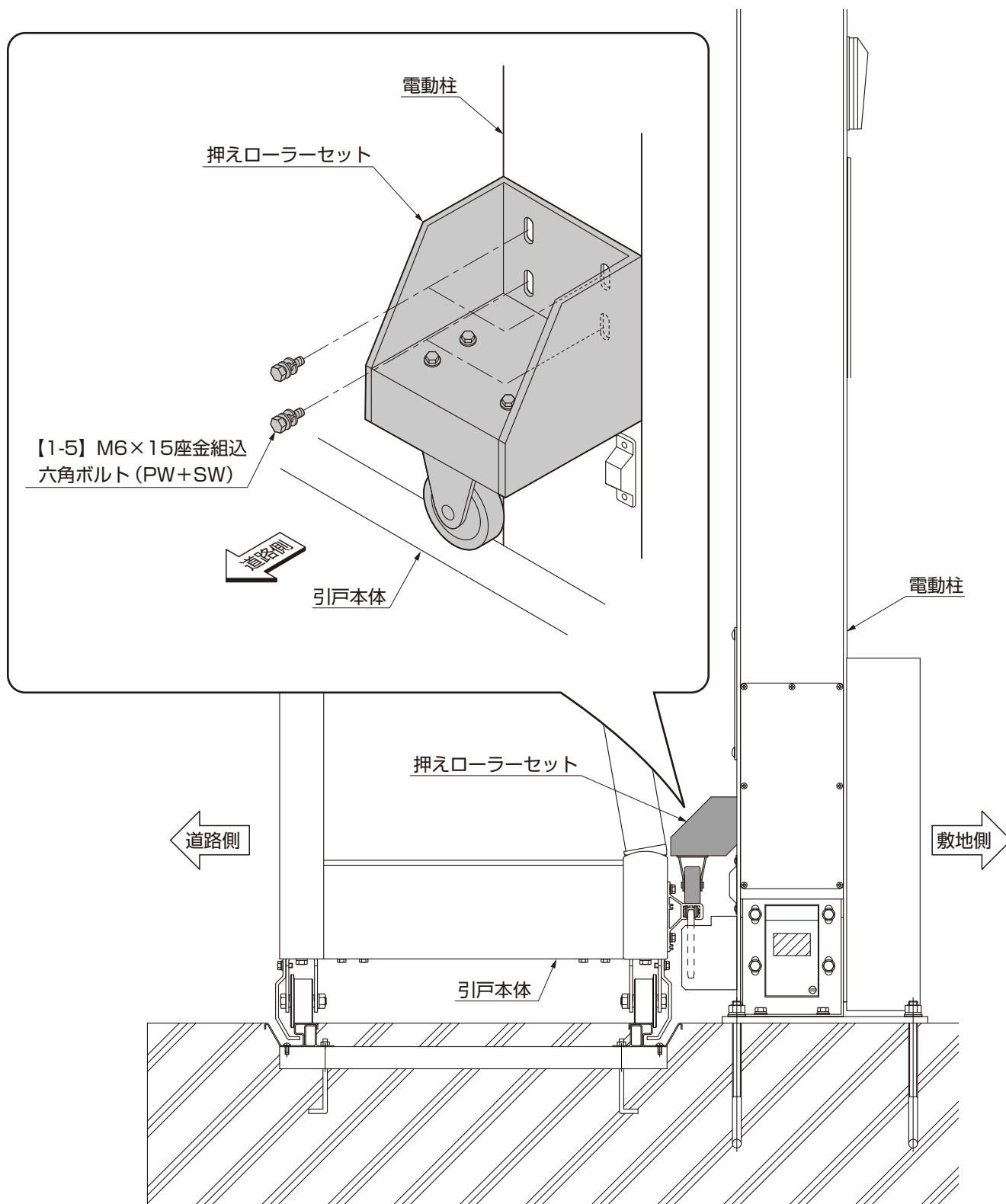


- ①センサーフードを【2-1】で取付けてください。
②センサー柱キャップを【2-1】で取付けてください。

お願い

- コネクターを必ず接続してください。接続したコネクターとコードを柱内部に納めてください。この時コネクターおよびコードは、センサーの後部に納めてください。(A・B部参照)

6. 押えローラーセットの取付け



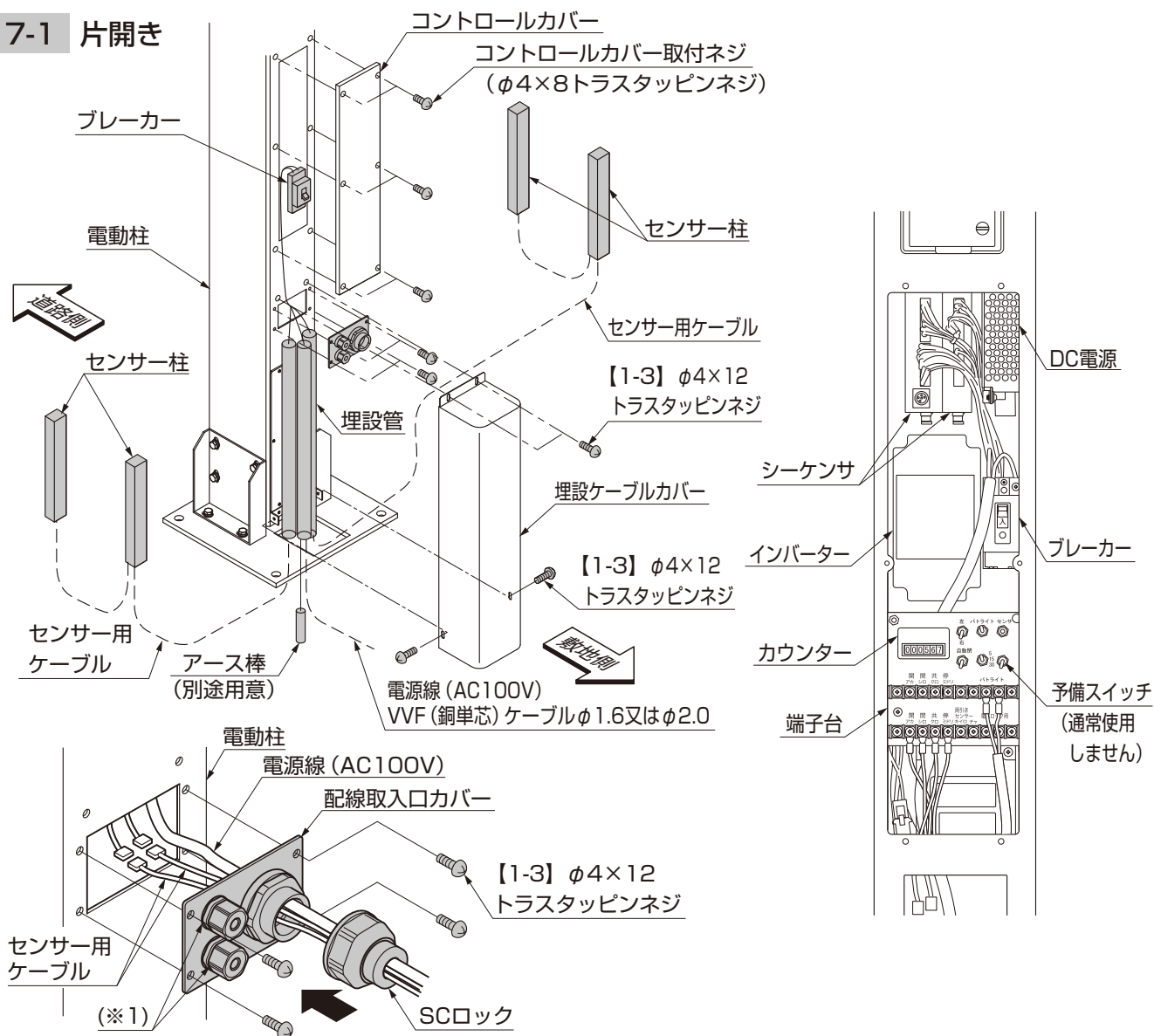
①引戸本体を押さえるように押えローラーセットを電動柱に【1-5】で取付けてください。

7. 電動柱の配線方法

⚠ 注意

- 電源線の施工、D種（第3種）接地工事は電気工事の有資格者に依頼してください。

7-1 片開き



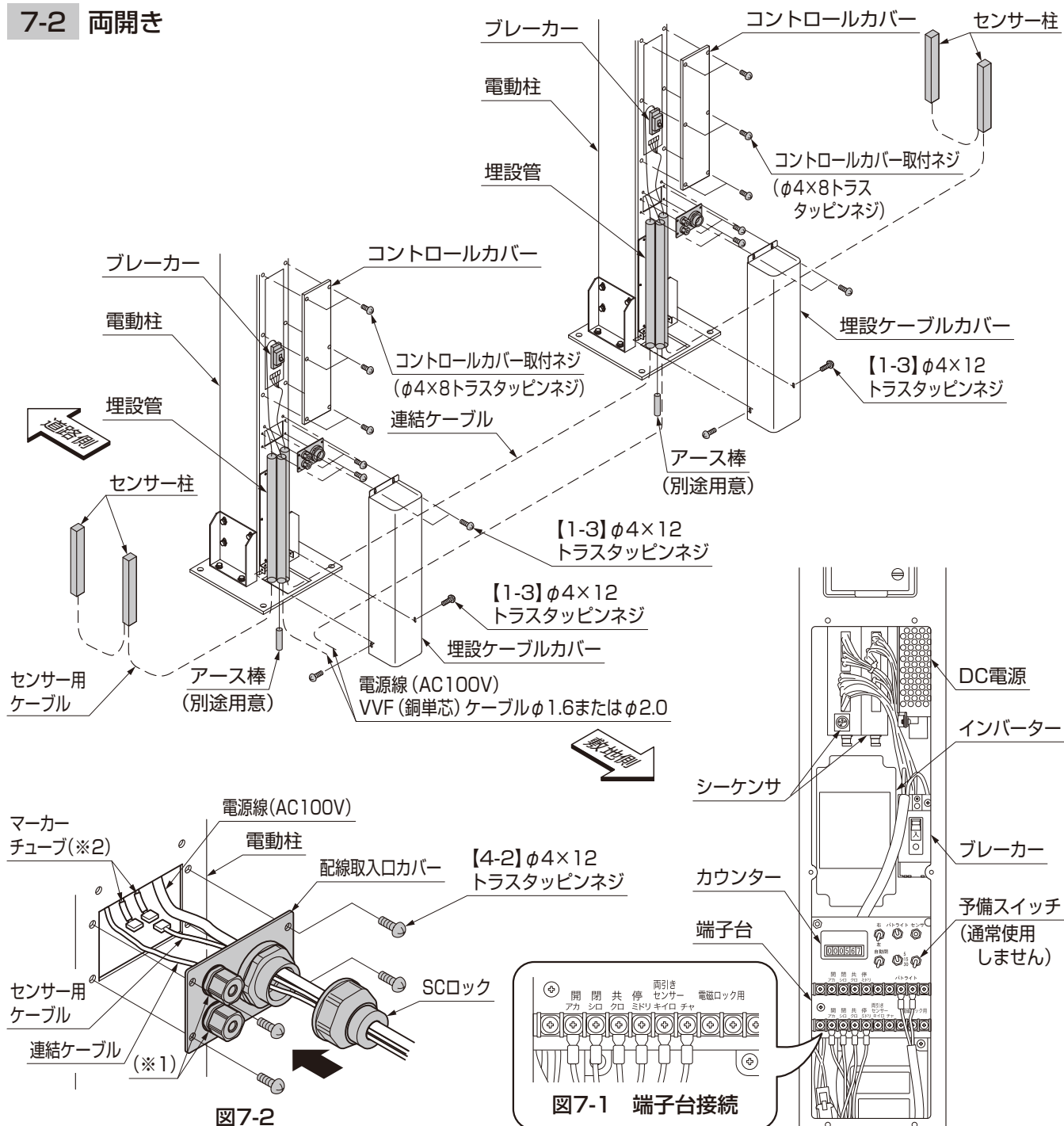
- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③各センサー柱につないでいるセンサー用ケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターに接続してください。その時、柱内にコネクターがくるようにしてください。(※コネクターは各センサー共通です)

お願い

- パトライトなどの別売品を接続する場合は、(※1)の片側に配線してください。(※1)のSCロックには最大外径φ8mmまでの線が通せます。
- 外部押しボタンスイッチ **オプション** を取付ける時は、端子台の色表示と配線の色を合せて接続してください。(次ページを参照してください)
- 電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。

- ④D種（第3種）接地工事を行なってください。
- ⑤配線取入口カバーを【1-3】で電動柱に取付けてください。
- ⑥コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【1-3】で電動柱に取付けてください。

7-2 両開き



- ①コントロールカバー取付ネジ6個を緩めて取外し、コントロールカバーを取外してください。
- ②電源線 (AC100V) を柱の中に通し、ブレーカーにつないでください。
- ③図7-2を参照しマーカーチューブ (※2) の刻印を確認してセンサー柱につないでいるセンサーケーブルのコネクターを、SCロックの間にはさんで、電動柱から出ているコネクターの外観右の装置はX6、外観左の装置はX7へ接続してください。
- ④図7-1と図7-2を参照して両開き用の連結ケーブルをSCロックの間にはさんで柱の中を通し、外観右左電動柱のそれぞれの端子へケーブルの色を合せて接続してください。
- ⑤第3種接地工事を行なってください。
- ⑥配線取入口カバーを【1-3】で電動柱に取付てください。
- ⑦コントロールカバーをコントロールカバー取付ネジで埋設ケーブルカバーを【1-3】で電動柱に取付けてください。

7. (つづき)

お願い

- パトライトなどの別売品を接続する場合は、(※1)の片側に配線してください。(※1)のSCロックには最大外径φ8mmまでの線が通せます。
- 外部押しボタンスイッチ **オプション** を取付ける時は、配線と端子台の色表示を合せて接続してください。(端子は上下2段使用できます)
- 電磁ロック取付時には「電磁ロック用」に接続してください。
- センサーケーブルを接続しなかった装置側のケーブル(外観右のX7、外観左のX6)は先端のコネクターを装置内に収納しておいてください。

8. センサーについて

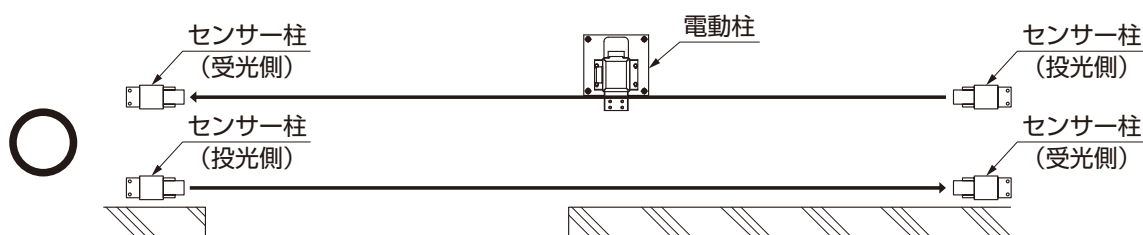


図8-1

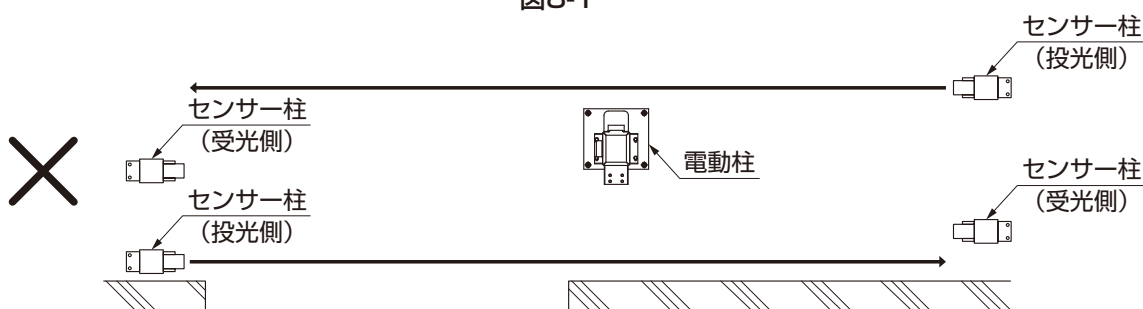


図8-2

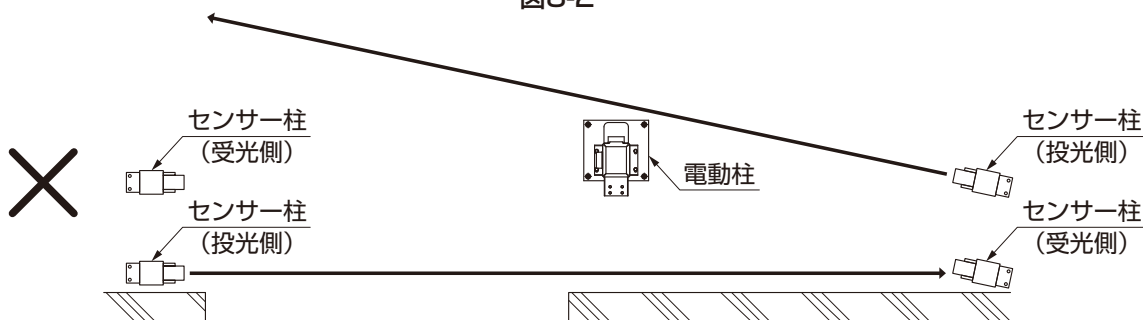


図8-3

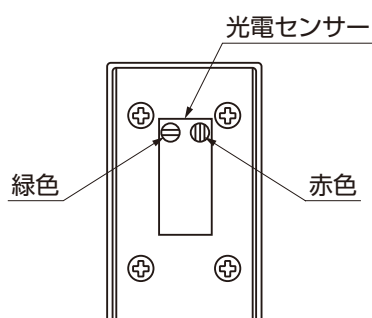


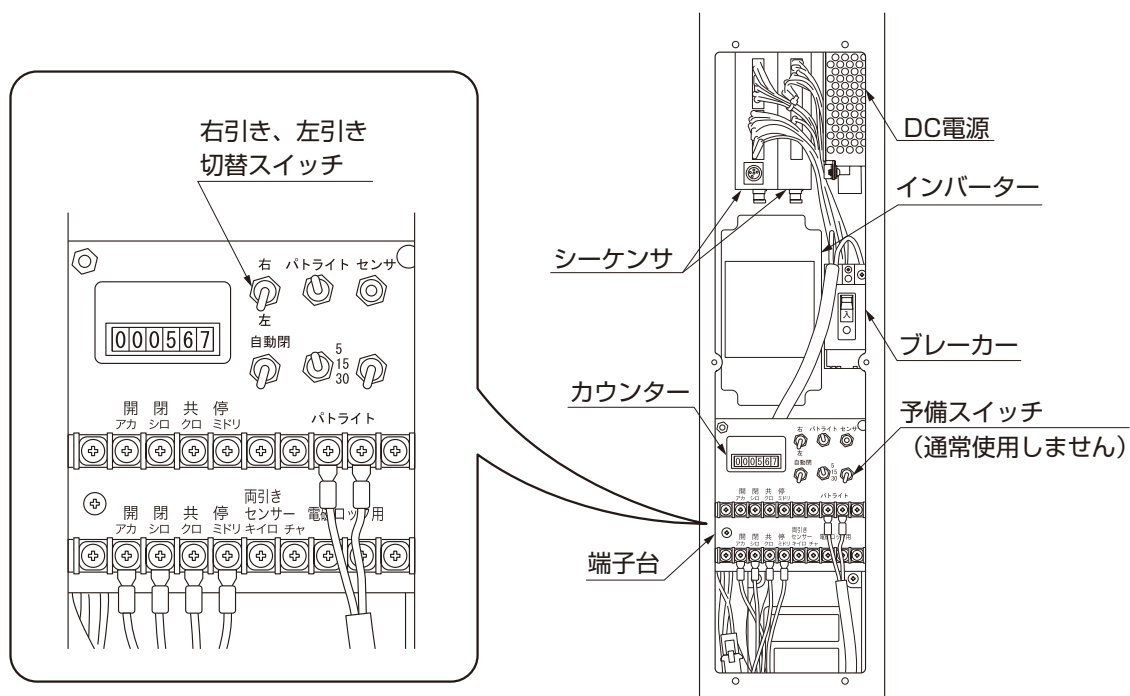
図8-4 センサー柱（受光側）

- ①センサー柱（投光側）とセンサー柱（受光側）の光軸を合わせるように組付けてください。

お願い

- センサーの特性上、図8-2、8-3のような組付け時には、センサーが誤作動したり、引戸が開閉しなくなりますのでセンサーは必ず光軸を合わせて取付けてください。(図8-2、8-3参照)
- センサー柱(受光側)には緑と赤のLEDがあります。(図8-4参照)
- 緑色のみ点灯している時・・・光軸が一致していない状態
緑色と赤色が点灯している時・・・光軸が一致している状態

9. 右引き、左引きの切替について



- ①コントロールカバーを外してください。
- ②引戸が右引きのときは、右吊元に、左引きのときは左吊元に切替スイッチを動かしてください。
- ③コントロールカバーを取付けてください。

補 足

- 初期設定は右引きになっています。左引きでお使いの場合は、切替スイッチを動かしてください。

10. マグネットスイッチの取付け

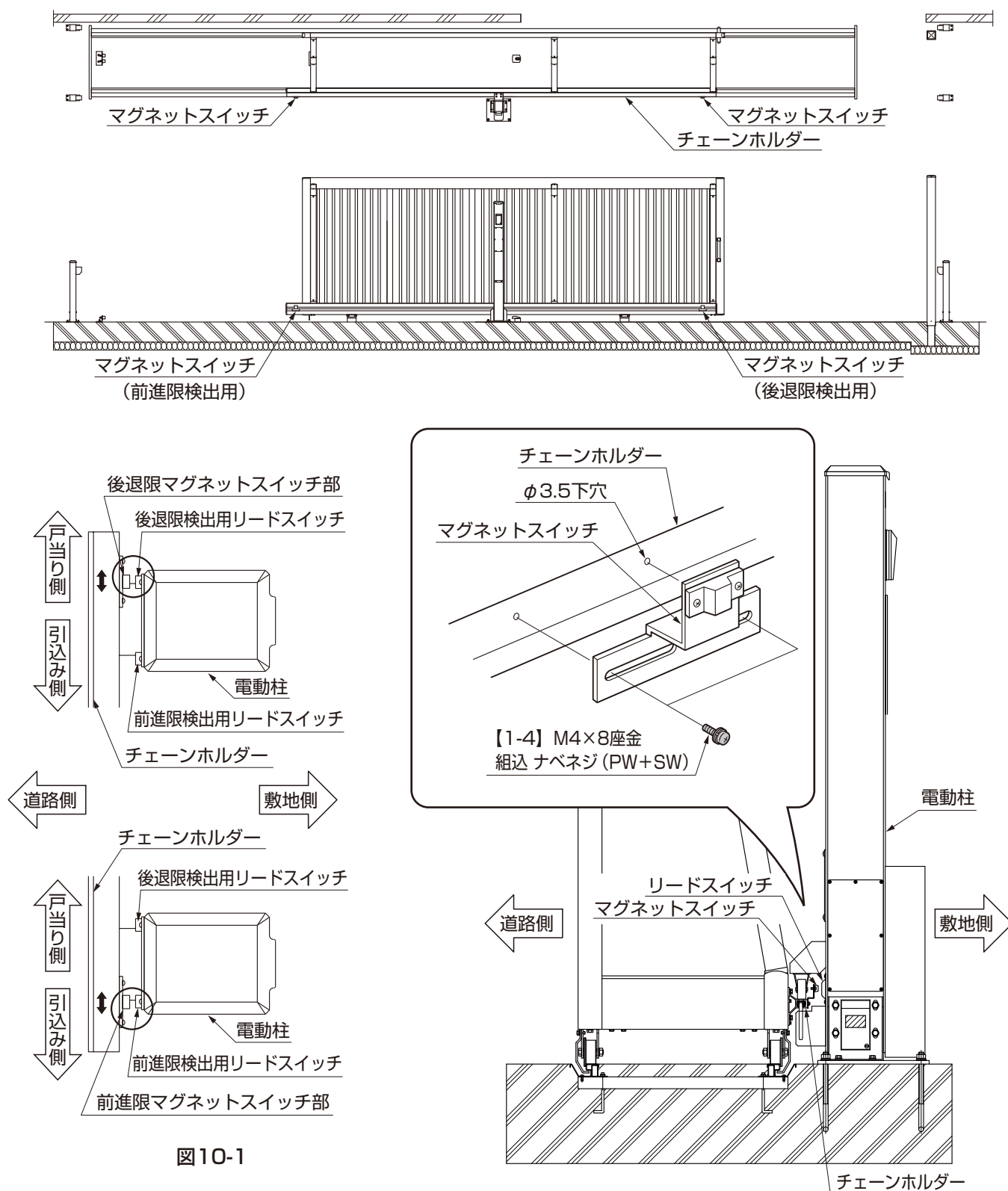
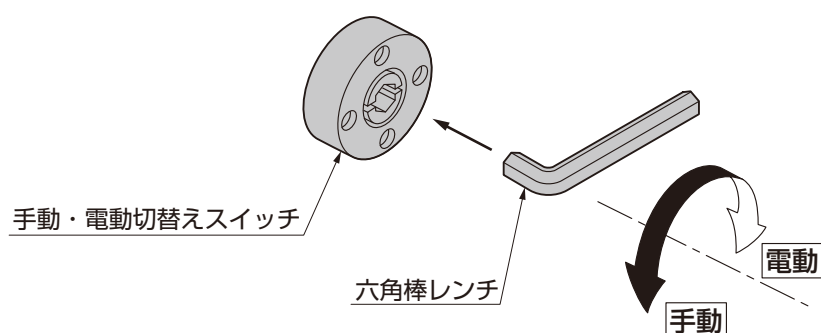
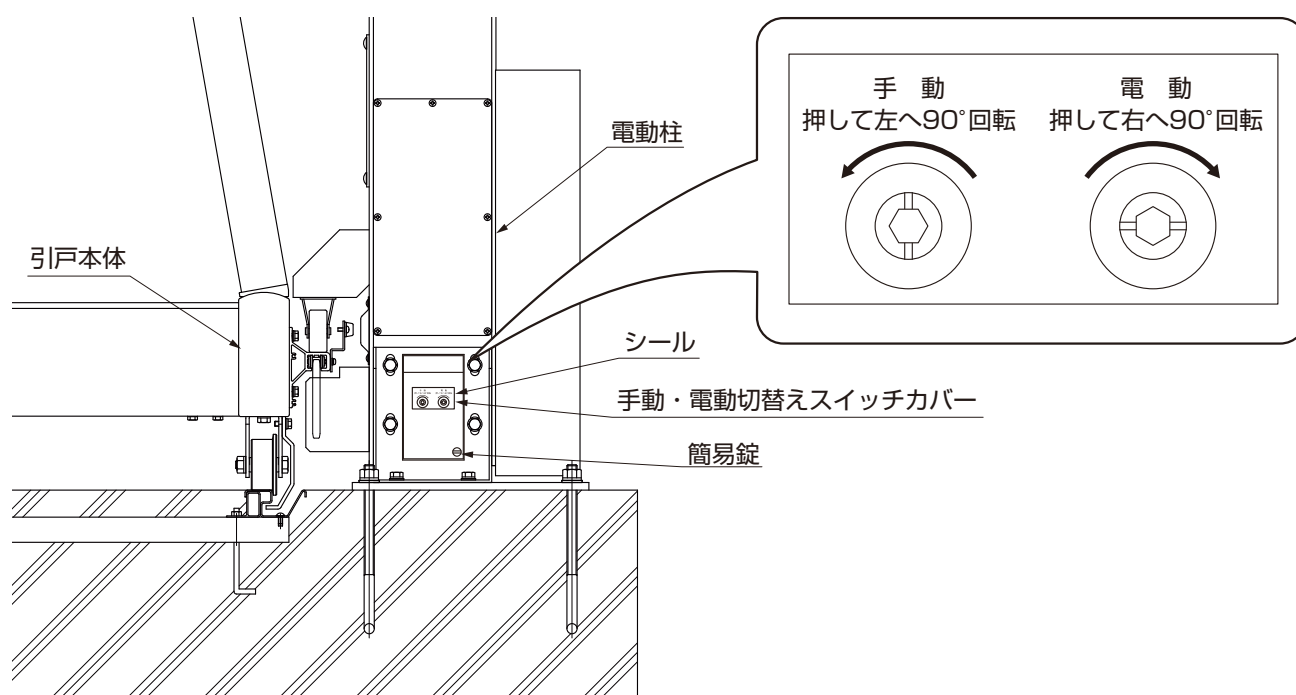


図10-1

- ① マグネットスイッチ裏面には仮止めの両面テープが貼ってありますので、目測で図10-1の位置になるよう取付けてください。
- ② リードスイッチとマグネットスイッチの中心が合うように、実際に動かしてみて位置を決めてください。
- ③ チェーンホルダーの中央にドリルでφ3.5の下穴をあけ、【1-4】で固定してください。

11. 手動と電動の切替え方法について



- ①手動・電動を切替える場合は、手動・電動切替えスイッチカバーの簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開け、カバーに貼付けられたシールに従って付属の六角棒レンチで切替えてください。

補足

- 電動柱は工場出荷時は手動になっています。
- 六角レンチは蓋の裏側に取付けてあります。

12. 引戸有効開口幅の電動柱への登録

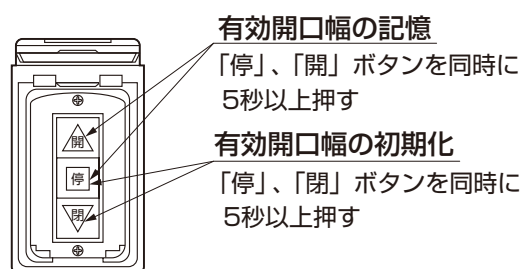


図12-1

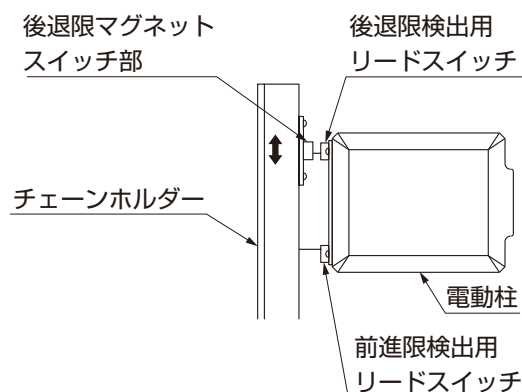


図12-2

表12-1 引戸有効開口幅の電動柱への登録方法

手順	作業内容	補足内容
1	電動・手動切換えスイッチを手動にしてください。	「11. 手動と電動の切替え方法について」参照
2	引戸を手動のまま動かし全閉状態にしてください。	
3	電動・手動切換えスイッチを電動にしてください。	「11. 手動と電動の切替え方法について」参照
4	電動柱押しボタンスイッチの「停」ボタンと「閉」ボタンを同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の初期化 「停」ボタンと「閉」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で“カチカチカチ”と短い連続音がします。カチカチ音が鳴り止むと、有効開口幅が初期化されます。
5	電動柱押しボタンスイッチの「開」を押し続けて、引戸を全開状態にしてください。	記憶位置が4.の操作で初期化されていますので、ボタンから手を離すと途中で引戸が停止することがあります。全開位置に引戸が到達するまで、「開」ボタンを押し続けてください。
6	引戸が全開位置にあり、後退限マグネットスイッチが検出リードスイッチ位置まで来ていることを確認してください。（図12-2参照）	「10. マグネットスイッチの取付け」参照
7	電動柱押しボタンスイッチの「停」ボタンと「開」ボタンを同時に5秒以上押してください。	有効開口幅の記憶 「停」ボタンと「開」ボタンを同時に押し続けると、柱内部で“カチ、カチ、カチ”と長めの断続音がします。カチ、カチ音が鳴り止むと、有効開口幅が電動柱に記憶されます。
8	柱押しボタンスイッチの「開」、「閉」ボタンを押して引戸が正常に作動することを確認してください。	

お願い

- 有効開口幅が正常に記憶されると、引戸は各開閉限約1m手前から減速し、速度を落とした状態で開閉限で停止します。約1m手前から減速せずに引戸が開閉限まで動いてしまう場合は、手順4から操作し有効開口幅の登録をしてください。
- 有効開口幅の記憶は施工時に1度登録することで、停電など主電源が切れた状態でも記憶しています。工場出荷時には有効開口幅10m相当の設定で出荷されています。
- 有効開口幅の登録をせずに引戸を使用すると、破損の原因となります。必ず電動柱への有効開口幅の登録を行ってください。

13. リモコンについて

※リモコン送信器の実用到達距離は約30mなので、その範囲内で操作してください。

13-1 電池の入れ方

(1) 登録・登録取消しの前に

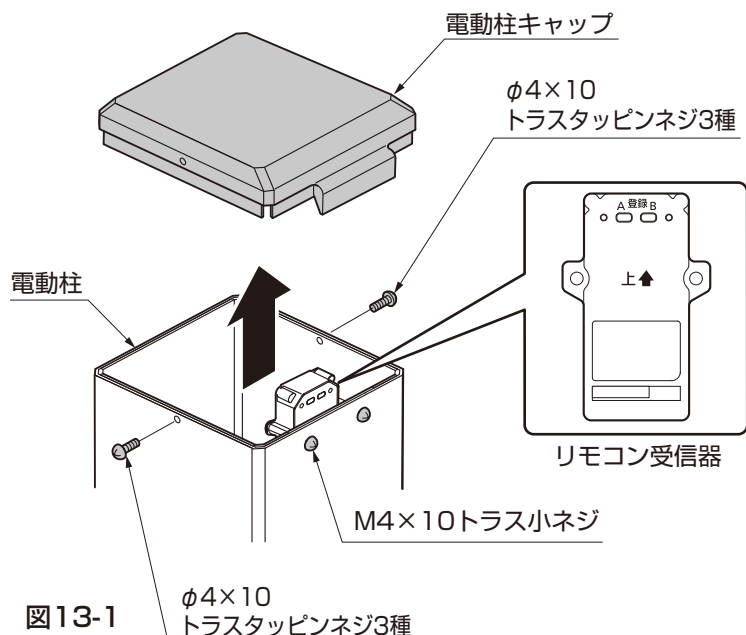


図13-1

①「φ4×10トラスタッピンネジ3種」を取外し、電動柱キャップを電動柱から取外してください。

⚠ 注意

●登録の際、アルミ材材の切断面に注意してください。ケガをするおそれがあります。

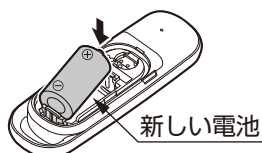
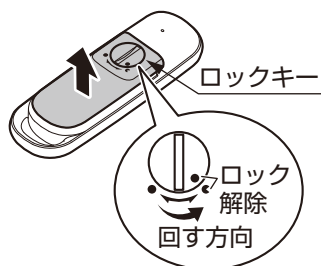
お願い

●取外した「φ4×10トラスタッピンネジ3種」は、後工程の登録完了後に取付けますので、無くさないように保管してください。「M4×10トラス小ネジ」を取り外さないでください。

(2) リモコン送信器・電池の挿入/交換方法について

✎ 補足

- 初めて使用する場合は付属している電池を挿入してください。
- 電池を交換するときは古い電池を取り出してください。



①薄くて平らなものを電池カバーのロックキーに挿入し、「ロック解除」の位置に回してください。



②電池カバーをしっかり押さえながら、ロックキーを「ロック」位置に回してください。

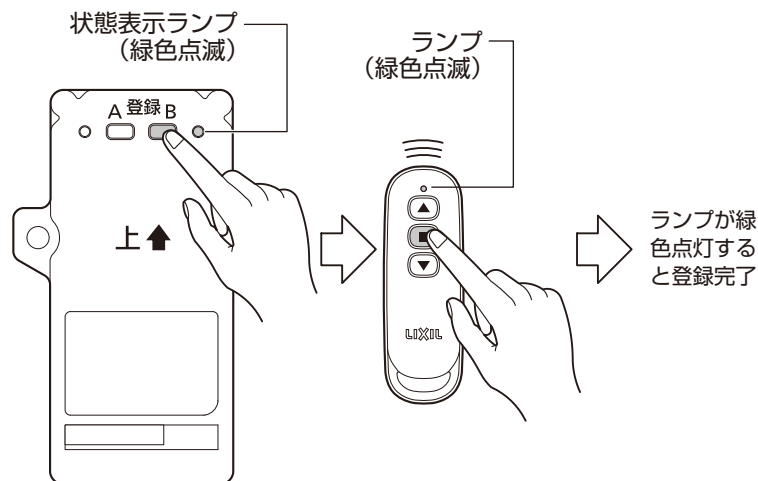
✎ 補足

※挿入／交換後、正常に機能させるために、次のことを必ずお守りください。

- 電池の極性「+」・「-」を確認の上、正しくセットしてください。また、水分やほこりなどが入らないようにしてください。
- ぬれたり、汚れた手で電池をさわらないでください。電池の接触不良となります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしないでください。
- 電極を曲げないでください。

13. (つづき)

(3) 登録 ※追加登録する場合も同様の方法になります。

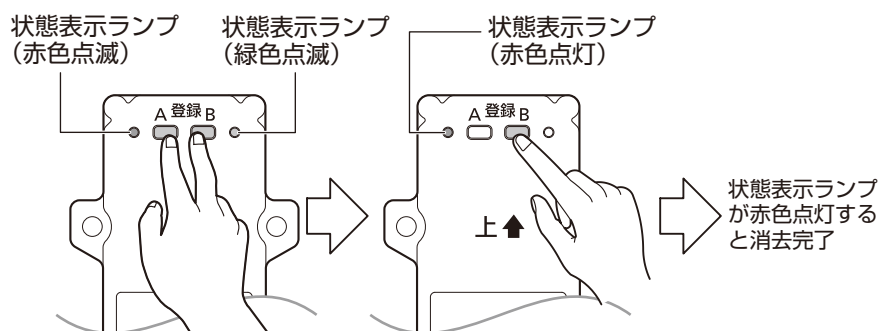


- ① リモコン受信器の状態表示ランプが緑色点滅するまで、「登録B」ボタンを約3秒間押します。
- ② リモコン送信器のランプが緑色点滅するまで、「■」ボタンを約5秒間押します。ランプが緑色点灯しリモコン送信器の登録が完了します。

補足

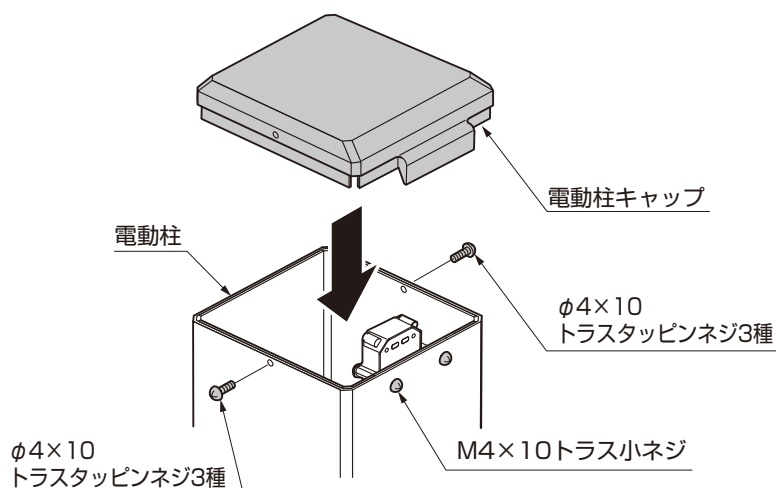
- 2台以上登録する場合は、①と②の作業を繰り返してください。
- リモコン送信器は、16台まで登録可能です。17台目は登録できません。使わなくなったリモコンを入れ替える場合は、リモコン受信器を初期化し、再度登録してください。

(4) 登録取消し ※登録されているすべてのリモコンを消去します。



- ① 状態表示ランプが緑・赤色点滅するまで、「登録A」「登録B」ボタンを同時に約10秒間押します。
- ② 「登録B」ボタンを押します。状態表示ランプが約2秒間赤色点灯し、リモコン送信器の登録が消去されます。

(5) 登録・登録取消し終了の後に



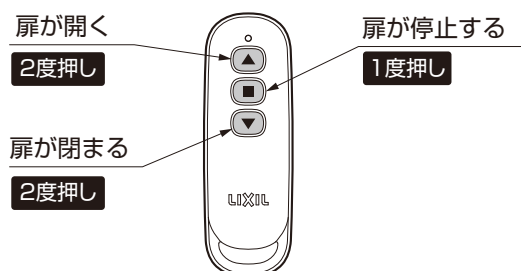
- ① 電動柱キャップを電動柱に、「φ4×10トラスタッピンネジ3種」で取付けてください。

お願い

- 電動柱キャップの取付けの際に、機器接続配線をはさまないように注意してください。断線やショートにより作動不良や途中停止の原因になります。

14. 引戸開閉操作の確認

14-1 リモコン送信器での操作方法



補足

- リモコン送信器の到達可能距離（目安）は見通し約30メートル以内です。
- 「▲」または「▼」ボタンの2度押し間隔が2秒を超えると送信されません。
- 「▲」・「▼」作動中に逆方向の操作をするときは、必ず一度「■」ボタンを押してください。

補足

- 作動途中で一時停止させるときは「■」ボタンを押してください。
- 一時停止位置によっては作動バランスの関係上、多少動くことがあります。
- 安全上「■」ボタンに限り1回押すだけで送信します。

14-2 電動柱押ボタンスイッチでの操作方法

※電動柱に付いている押ボタンを押して扉を開閉してください。

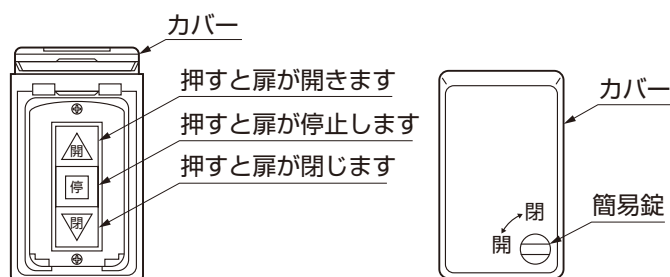


図14-2 電動柱押ボタンスイッチ

- ①簡易錠をコイン等で開位置（溝が水平）まで回してカバーを開けてください。
- ②開ボタンスイッチを押すと扉が開きます。
- ③停ボタンスイッチを押すと扉が停止します。
- ④閉ボタンスイッチを押すと扉が閉じます。
- ⑤カバーを閉め、簡易錠をコイン等で閉位置（溝が垂直）まで回し施錠してください。

注意

- イタズラや誤操作による損害を防ぐために、操作時以外はカバーをロックしてください。

15. 施工後の点検

15-1 引戸本体の確認

- ①すべての部品の取付け後、電動柱下部のクラッチ解除レバーを再度手動にして、引戸本体がスムーズに作動するか確認してください。
- ②次にクラッチ解除レバーを電動にして引戸を作動してください。前ストッパー、後部ストッパーに引戸が当たる直前に駆動モーターが切れるタイミングになるよう、マグネットスイッチを調整し直してください。
- ③調整後、再度電動で引戸を作動させ全開状態、全閉状態でクラッチ解除レバーを手動に切替えてください。スムーズにできれば調整終了です。

15-2 センサー作動の確認

(1) 光電センサー

- ①センサー柱内に透過型光電センサーがGLから約64cmの位置に組込まれていて、障害物を検出した場合引戸は停止します。センサーの確認方法として、手などでセンサーを遮光し引戸が確実に停止するかテストを行なってください。停止後、引き続き開閉操作を行なうと引戸は作動します。

15-3 押えローラーの調整

※手動電動切替スイッチが電動の状態のとき、引戸本体が閉めた状態から手動で簡単に動いてしまう場合は、以下の方法でブレーキ力を調整してください。

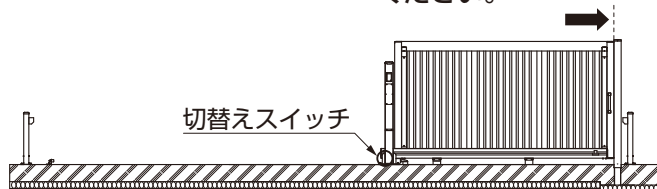


図15-1 片開き

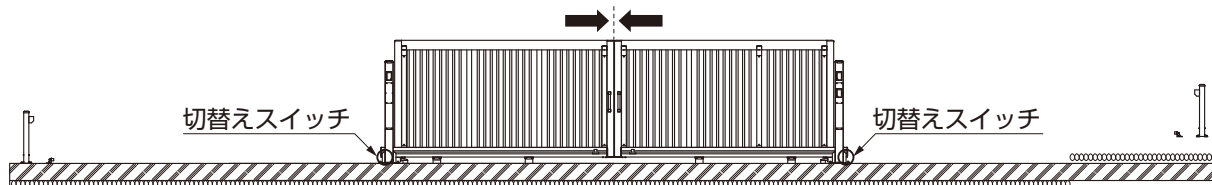


図15-2 両開き

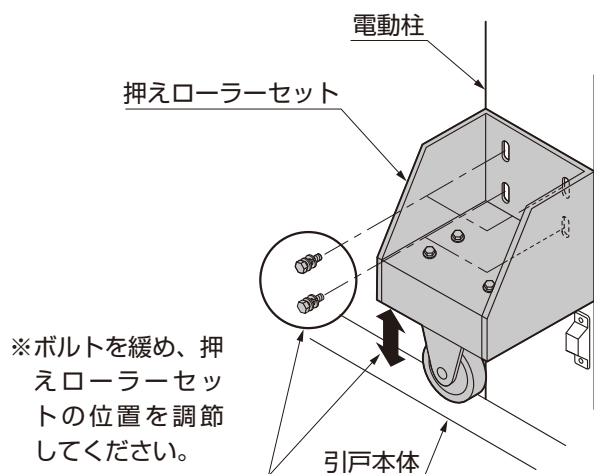


図15-3

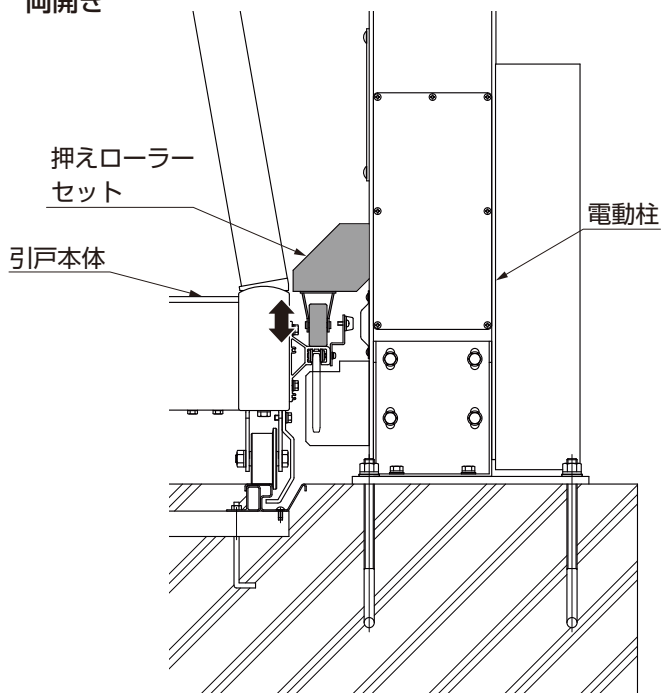


図15-4

- ①引戸を閉めた状態にし、手動電源切替スイッチを手動に切替えてください。(図15-1、図15-2参照)
- ②引戸を閉めた状態で、押えローラーセットのローラーと引戸本体が浮かないよう、押えローラー取付けボルト(M6×15六角ボルト)で調節してください。(図15-3参照)

お願い

- 押えローラー取付けボルトで調節したあと一度本体を動かし、本体全体にローラーが押えられているか確認してください。
- 押えローラーの調整のみで全体にローラーが押えられない場合は、P.8「**3-3 電動柱の固定**」を参照して電動柱の高さを調整してください。

- ③手動電動切替スイッチを電動に切替え、再度確認ください。

取説コード

D632

JZZ634836B
201504A_1039
202102D_1049